

可能性を信じて

下松市立末武中学校 二年一組 鬼武和花愛
二千二十四年、一月一日。十六時十分、石
川県能登半島を震源とした、震度七の巨大地
震が発生した。多くの方が犠牲となり、今で
も避難生活を送っている方が沢山いる。誰も
想定していなかっただろう。それだけ、自然
災害というのは突然起きてしまうのだ。だか
ら、その自然災害から身を守るために今自分
に何ができるのか、少し考えてみた。

まず、ハケ月前に起きた能登半島巨大地震
の、ニュースを見て思ったこと。それは、前
文に書いたとおり、自然災害は本当に想定し
ていないときに起こり、突然自分たちに襲い
かかってくるものだということ。だから、日
頃からの備えが本当に大事だと思った。そし
て、何度もニュースに映った大破した店や家
大事な人を亡くした方の涙。心が握り潰され
るように痛かった。自分なら耐えられず、最
悪自らの手でこの世を絶ってしまいかもしれ

ない。そんな状況の中でも復興に向けて、一生懸命努力されていると考えると、自分ももと頑張らなければいけないと思う。だから、テレビで一番学んだことは、しっかり日頃から自然災害に対する備えをしておくことだ。そして、自分が自然災害を体験してみて思ったこと。四月十七日、十一時十四分ごろ、震度四の地震が起きた。十一時を過ぎっており、私は寝ていたが、あまりにも大きな揺れで、目を覚ましてしまった。暗くて、部屋に一人

だ。たというのもあり、とても怖かったのをよく覚えていいる。だから、大きな地震とはテレビや新聞だけのことではなく、私たちの身近なところで起こってしまうものなんだと改めて思った。そして、震度四の少し大きめの地震を体験してみても、やはり災害に対する備えをしっかりとかりしておきたいと思った。そして、我が家では三つの備えをしている。一つ目、それは防災ボックスを置いておくことだ。水や食料、避難生活に必要なものなど

起きてからでは準備ができず、避難生活に困
てしまう。だから、もしもの時のために置い
ている。二つ目は、避難場所の決定だ。家族
で一緒のときに災害が起きるとは限らない。
だから、私の家では学校や公民館に集まろう
と話している。三つ目、これは私が個人的に
していることだが、自然災害が起きた時の対
処方法を知っておくことだ。対処方法を知っ
ておくことで、いざとなった時に、自分や周
りの人の安全を守ることができ、落ちついて

行動できると思う。だから、対処方法を知っ
ておくことは大事である。私は思う。

私は防災に対する提案が一つある。それは、
いつもの学校で行っているような避難訓練を、
下松市というまとまりで行うことだ。下松市
の規模で行うことで、実際に避難する時にど
ういった行動をとれば良いのか、どこに避難
するのかなど、再確認することができる。そ
して、もしも起きてしまった時、一回でも訓
練をしておくことで、この時はこういう行動

をしたたら大丈夫と、行動に落ちつきが出て、スムースに避難でき、より安全に避難するところができると思う。このような理由で、私は避難訓練を提案する。

地震などの自然災害を見たり、体験したりして思ったことがある。それは、今の自分たちにも何かできることはあるはずだと。例えば、私の家のように防災ボックスを備えたり、避難場所を決めたり、今からでもできることをするだけで、十分防災につながると思う。

そして、私は募金だってできることではないかと思う。十円だって、百人が集めれば千円になる。千人が集めれば一万円になる。たった一つの行動で、救われる人がいるかもしれない。絶対と助かるとは言えない。絶対守れるとは限らない。でも、その可能性を信じて、防災行動をしていきたい。これからの安心安全な下松市のために。